

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“個別ケアによる家庭的雰囲気の中で豊かな人間関係を保ち支えあう暮らしを目指しましょう”を理念としてある。	○  理念がさらに浸透するように努めたい・
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいたケアを実践し利用者が快適な生活ができるように取り組んでいる。	○  職員間でのカンファレンス、ミーティング等を通して理念を共有し実践に取り組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域で暮らす大切さや地域に馴染んだ生活がおくれるように家族、近隣の方の来苑時や運営推進会議等を通して理解してもらえよう働きかけている。	○  管理者、職員が共に地域資源の大切さを把握し家族、地域、運営推進会議を通じて理解を深めネットワークを幅広く築いていきたい。
<b>2 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩、買い物時に利用者・職員共に挨拶や談話を交わすようにしている。近隣住民の方に園芸を手伝ってもらったりしている。	○  今後も交流を深める為、気軽に立ち寄ってもらえるよう声かけを行い立ち寄られた際には快く迎えるように努めたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高齢クラブの方、民生委員の方々と連携し参加できる地域の行事等の情報交換を交わし協力して頂いている。小学校で行われる市民スポーツ祭の情報など教えてもらっている。	○  幅広く地域で参加できる行事等の機会を増やし積極的に利用者と共に参加し交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居希望する家族の介護相談・見学等の支援を随時行っている。	○	近隣に住む独居高齢者の方が当苑で一緒に食事やボランティア行事を楽しむ機会を持ちたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	支援の見直し、評価、反省することによりサービスの向上を目指す。普段気づかない事が外部からの目により改善すべき事柄が発見でき取り組んで行く事ができる。	○	会議等を通じて改善点を話し合い策を講じて改善に向けて実行していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でグループホームの役割、業務の取り組み方について理解してもらおうと共に助言・意見を頂き活用するようにしている。	○	取り組み状況を知って頂く為、行事への参加の機会を持ったり、それ以外にもボランティアによる歌や演奏会などがある時には見学来苑してもらえよう声かけをしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に関わる窓口の担当者や防災等についてのことなど相談する機会がある。	○	相談できる窓口の活用、情報交換においても市町村との連携を深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等を通じて認識し理解を深めるようにしている。	○	必要に応じて早急な対応ができるよう今後も研修に参加し認識を深めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じて学ぶ機会を持ち日々の利用者の状態を観察し注意を払っている。また職員自身も健康管理に注意しストレスを溜めない様心掛けている。	○	今後も虐待防止についての研修参加や施設内での勉強会等を通じて知識を深め防止の徹底に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	理解してもらえよう努力していく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	利用者・家族の意見が表出しやすい雰囲気づくりや工夫についても考えたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	行事等で家族交流を図れる場を設け暮らしぶりを知って頂くようにしている。そういう機会を増やしていきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	家族の希望や苦情等を忌憚なく言えるような環境作りに勤めたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	常にミーティングにて意見を出せるような雰囲気作りを心掛けている。自己評価シートの活用も行って生きたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	柔軟に対応するには困難な場合もあるが対応できるようボランティアの活用等も考えていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化し馴染みの職員によるケアを心掛けている。	○	職員のストレスや仕事に対しての不安要因を改善できるように職員間で援助に対する考え方や悩みの相談など出来るような雰囲気作りに努めたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加できる機会を設け職員のスキルアップへと繋げている。	○	職員一人ひとりが自主的に研修に参加したいという考え方を持ってもらえるように内容を厳選して決めていきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会や大阪認知症グループホーム協議会に加入し研修会や勉強会に参加し情報交換・サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	施設内外での研修など大切に情報交換を行いサービスに生かしていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各職員が日々の中で報告しやすい雰囲気を作るようにしている。	○	法人全体のレクリエーション（日帰り旅行など）また職員同士の交流会・福利厚生を積極的に行っている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設内研修会など多く実施しスキルアップに努めており、各個人が向上心を持てるよう働きかけている。	○	研修内外の機会はできるだけ多く確保していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	新しい場所での生活環境の違いからおこる不安・心配を少しでも取り除けるよう声かけ等を行い利用者の訴えることを傾聴しコミュニケーションを図るようにしている。	○ 職員と利用者が一緒に過ごせる機会を増やし気軽にいつでも話を聞けるような雰囲気作りを努力している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が来苑された時には居室やホールで本人とくつろいでもらえる雰囲気を作りその際に近況の生活状況などを細かく報告し家族の希望・要望を聞くようにしている。	○ 今後はカンファレンス等に家族の方にも参加を促し家族の方の意見を聞ける場を作っていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時には本人と家族の意向を尊重しつつ望むサービスが提供できるよう努力している。	○ 現状維持でいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の生活暦、生活習慣、性格等の情報を事前に収集し、また馴染みの家具や持ち物を取り入れ生活の変化が最小限にできるよう工夫する。	○ 職員と一緒に早く馴染めるに良い関係を築いていけるよう配慮していく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者個々の生活のペースに合わせ必要とされる部分を支援し、また利用者本人から職員が教わることも多く寄り添うケアに取り組んでいる。	○ 家事や散歩、レクリエーション等様々な場面を通じて家庭的な暖かい関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向もふまえ状況に応じて話し合う機会を確保し相談しあう関係を保っている。	○	家族の協力を得ながら本人がその人らしい生活ができるよう今後とも支援していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族も参加して頂ける行事（夏祭り）等を通して家族交流を図り、また日常の面会時には本人の居室やホールでも好きなところでゆっくりとくつろいでもらえるようにしている。	○	家族交流できる行事（夏祭り）やボランティアによる歌や演奏会があるときには家族に声をかけ交流を深めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人・知人の方も気軽に来苑してもらえるよう家族の方に協力依頼をしている。	○	馴染みの人とふれ合えるよう来苑、または外出の機会も持てるよう支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士がくつろいで会話ができるような居場所の確保や孤立しがちな方については他の利用者との距離感もふまえつつ落ち着ける居場所の確保に努めている。	○	利用者同士が馴染みある人同士として家庭的な雰囲気構築できるよう努力していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	馴染みある人として関係が継続できるよう努め、また退所後の事や福祉についての相談事の受け入れをしていることを伝えている。	○	良好なコミュニケーションが継続できるよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を尊重し不満・ストレスがつのらない様に普段から話をよく聞くようにしている。困難な事例については会議、カンファレンス等において検討し改善するようにしている。	○	利用者本位を視点に今後も希望、意向の把握に努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞く過去の暮らしぶりやその他家族からも情報を提供してもらっている。全ての職員が把握できるよう努力している。	○	細部にわたり情報収集に努め日常生活に反映していききたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活習慣、好み、出来る事などを把握し快く1日が過ぎせるようにしている。	○	満たされた1日が過ごせるよう個々の生活ペースに合わせ楽しみや出来る事の機会を提供していく。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を尊重し医療・福祉の関係者と連携を保ち介護計画に反映している。	○	本人のより良い暮らしの為にとりまく家族、関係者と連携を深めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の介護計画の見直し・作成している中で状況変化に応じて家族・医療と相談また話し合いの場を持ち計画の見直しを随時行うようにしている。	○	家族・医療・福祉の連携を深め利用者にとって最善の計画作成が出来るよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には一日経過を詳しく記録するようにしている。状況の変化や対処方法等については連絡帳を活用し情報の把握に努めている。	○	日常の個別記録を重視し実施内容を検討の上さらに充実した介護が出来るよう取り組んでいきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の要望に応じて必要な手続きの支援また受診・外出・買い物等の支援を行っている。	○	今後も併設施設・様々な機関等連携をとり支援体制を作っていくたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には地域で参加できる行事ごとなどの相談ができボランティアでは歌・演奏・体操など支援をしてもらっている。	○	地域の関わりを大切にネットワークの拡大に努めたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて他の事業所、ケアマネジャーと連絡・相談できる体制はある。	○	情報交換を行い連携を深めていくよう努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協力し合える関係である。	○	必要に応じて協働する体制である。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携が整っており入所時に本人・家族に伝えている。また本人が入所前からの係り付け医がいる場合は本人の意向をふまえ通院できるよう支援している。	○	病状の把握に努め、家族、医療、職員と連携をとり合い今後の方向性を検討する機会を確保していきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人の日常の状態、変化についても詳しく説明し適切な治療及び診断が受けられるよう家族と共に関係を築くようにしている。	○	病状の把握に努め、家族、医療、職員と連携をとり合い今後の方向性を検討する機会を確保していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設機関の看護師がほぼ毎日来ており、いつでも相談できすぐに体応できる。24時間連絡できる体制にある。	○	今後も看護師と連携を密にとり、的確な対応ができるよう取り組みたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院時には病院のソーシャルワーカーと密に情報提供を行い早期に退院できるよう支援を行う。	○	医療機関と協働し本人・家族の意向をふまえ最善の方向性を検討する機会を確保していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態が変化した時には家族・職員共に本人の受診時に行き医師との連携を図る。最善の方向性を検討する為随時話し合う機会を持ち共有する。	○	共有できる関係を築いていく為にも話し合いは不可欠で今後も努力していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	独自で見極めたり判断せぬよう注意し必ず医師・家族など本人をとりまく関係者と相談し方向性を共有するよう取り組んでいる。	○	できない事については懇切丁寧に説明し信頼関係が損なわれないように注意し本人をとりまく家族関係者とチームワークを保つように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所時には本人にとって馴染みある家具・布団などを持ってきてもらい環境のダメージを軽減できるよう説明している。グループホームから別の所に住む時にはそのケア担当者に情報提供等を行う。	○	環境の変化によるダメージの軽減を図る為、馴染みある物や生活習慣の情報の交換は行っていきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には個人情報の取り扱いについて説明しまた入居者の自尊心を傷つけないように声かけに配慮する等介助の際には、さりげない援助ができるよう心掛けている。	○	今後もプライバシーを損ねるような言葉かけや対応に注意し定期的にマナーの自己チェック表を使用し確認していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来る限り自己決定を促し尊重するようにしている。声かけや話し合う中で受容し感情表出がしやすい働きかけを行っている。	○	入居者の方が自己決定できるようにまた、入居者と職員の信頼関係より深く保ち感情を表出しやすい雰囲気を作っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活歴を把握し意向にそった支援をしたいと努力している。しかし職員側の都合に合わせてもらっている部分もあると感じている。	○	職員側の都合に合わせてもらっている部分をとり除いていけるよう改善していく必要がある。日々の課題であると感じている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の馴染みの店を利用したり美容院については店の方に来て頂いたりしており交流を図っている。2ヶ月に1回ボランティアの美容師を利用されている方も数名いる。	○	身だしなみやおしゃれをすることについても個々の自己決定を尊重していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力、その日の体調を見ながら一緒に調理片付けを行っている。定期的に月2回とそれ以外、行事や誕生日の時には利用者の方の希望を取り入れたメニューを調理している。	○	調理をする事、食べる事の楽しみを感じてもらえるよう支援して行く。必ずしも全員が同じ食事でもなくても個別にメニューを選べる機会も作ってみたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	身体的な事も考慮した上で個々の好みにあった物を提供している。(甘い物・飲み物・ローアルコールビール)	○	飲食については日々の楽しみの一つとして大切に捉えており、健康面を考慮しながら支援していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し個々に応じたトイレ誘導を行っている。日中のおむつの使用量を減らしていくよう心掛けている。	○	トイレ誘導の声掛けにも配慮し失敗を減らすよう支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の基本的な曜日は設定しているが、それ以外の日にも希望に応じて、いつでも入浴できるように対応している。	○	今後も希望時にゆっくりと入浴できるよう支援していく。季節に応じた、ゆず湯等、特別な湯の日など検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々に応じて居室にて昼寝をする方もおり、その際、様子観察を行っている。睡眠状態が日々変化される方には元の生活習慣に戻れるよう支援する。	○	日中の過ごし方、安心できる居室の環境等に配慮し安眠に繋げたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力や興味のあることを尊重し支援を行っている。ボランティアを活用し体操・演奏などを取り入れ楽しんでもらう。	○	個々の好みや能力に応じたケアをより良いものにしていきたい。今後もボランティア等を活用し日々楽しんで頂く。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて買い物時の支払いや自己管理ができるように支援を行っている。	○	個々の希望や力に応じて自己管理が難しい方も買い物の際は自分の財布を持ってもらう支援を考えていきたい。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や様子を見て散歩・買い物・外気浴を通じ気分がリフレッシュできるよう支援している。	○	個々に希望で外出できるよう対応していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食・行事の遠足等で普段行けない場所へ企画し実施している。	○	家族の協力が得られるよう考えていきたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもできるようにしている。手紙・はがきも希望があれば対応できるようにしている。	○	次は年賀状の時期に手紙のやり取りができるように考えている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人が来られた際には、くつろげるよう配慮しまた、いつでも来苑してもらえるよう声かけを行っている。	○	行事の参加を促したり交流会を活用し、いろんな方に訪問してもらえるように考えていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止は理解しているが具体的理解を深める為研修等に参加している。	○	行動制限に対する問題を深く理解し尊厳を守るケアが実践できるよう取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のカギをかける事の弊害は理解しているが玄関前が車道で危険が伴う為施錠している。居室については実施できている。	○	決まった時間だけでもカギをかけないケアをしたいが玄関前が車道で危険性があり不安に思う。玄関前の庭作業をする時には玄関を開放する機会を持っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食事やティータイムの機会に全員の所在や様子を確認する。それ以外にも姿が見えてない時には所在を確認するよう配慮している。	○	プライバシーに配慮しながら安全に過ごせるよう支援していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・薬品類は倉庫に保管しカギをかけている。包丁・ハサミ等は見守りを行い使用できるようにしている針は使用后、本数確認している。	○	個々の状態、希望に応じて検討していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態を把握し服薬時その他、転倒に注意を要する人に関しては申し送りやカンファレンスを通じて対策をとるようにしている。	○	ヒヤリハット・事故防止報告書を通じて再発の防止に努めたい。火災訓練を定期的に行っていく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡網や緊急搬送の病院の連絡先の表示。緊急時のマニュアル作成。研修等の参加、ナース・ドクターの指示を仰ぐ。	○	医療との連携をさらに深め応急手当・初期対応等についての知識を備える。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域運営推進会議にて防災について意見交換を行い近隣の消防団との連携を深めていくきっかけづくりができた。	○	地域で年1回、行われる消防訓練等にも参加する機会を通じて協力を得られるよう働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時に家族に説明を行っている。入所時、変化が生じた際には家族と話し合うようにしている。	○	リスクによる変化に注意し今後も家族と話し合い対応していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、午前・午後のバイタルチェック・水分・食事・排泄等にも目を配り、異変時にはナースにすぐ連絡し対応している。	○	毎日の申し送りの徹底・業務日誌の確認を行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人ケースに挟み、職員が把握できるようにしている。個々の変化に注意し、様子を観察するよう努めている。	○	日々の様子観察・医療との連携を図る。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスのとれた食事摂取・水分補給・他に便秘がちな方にはヨーグルト等を摂取してもらっている。散歩や体操する機会を作っている。	○	便秘-3日目、または本人の状態に合わせて看護師に報告を行う。できる限り薬に頼らない解消法で対処していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・晩の歯磨きの声かけの実施・介助の必要な方は朝・昼・晩実施している。イソジンうがいは毎食前に全員行っている。	○	専門家の医師に相談や定期的な受診できるように体制は考えたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、シルバー食の献立を提供している。体の状態によって、その方の1日必要水分量や水分制限量を確保するようにしている。	○	栄養摂取や水分確保が利用者の方のストレスにならないよう今後も工夫をし支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	消毒液で毎日、拭き掃除を実施。食前、帰苑時にうがい、手洗い、手指消毒を実施している。入浴の際、皮膚の観察を行っている。常に体調の観察を行う。	○	研修で得た事を活かし、対策の徹底に努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等の衛生管理を徹底し夜勤者は毎日スポンジ・まな板等ハイターづけを行っている。食材が届くとすぐにチェックし日付記入後、冷蔵庫等に片付けている。	○	今後も注意し環境整備・調理方法にも気をつけたい。毎日、毎食の検食をし冷凍室に保管している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲で花・野菜・植木を植え安心感を感じてもらえるよう工夫をしている。	○	今後も安心して出入りが出来るように取り組みたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からはミドリが見えるよう植木がある。ホール内の装飾など季節を取り入れ明るく家庭的な雰囲気作りができるようにしている。利用者と一緒に作成した貼り絵や折り紙など季節を取り入れ飾っている。	○	浴室・トイレなどにも季節感を取り入れたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル・テレビ前のソファなど自由に移動され楽しまれている。ホール内に完全、独りになねる場所は、ないので居間で一人過ごされる時間も大切にしている。	○	個々が安心できる空間作りを工夫していきたい。また職員も日々の生活の中で気配りをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入所時に本人が使用していた家具や布団等を持 ってきてもらい居心地良く過ごせるよう、また家庭 的雰囲気を作れるように工夫している。	○	居心地がいいと思ってもらえる居室作りに配慮し ていきたい。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室・共有スペースともに朝一番、掃除の際は窓 を開け換気を行うようにしている。また湿度・温 度によって換気も定期的に行っている。	○	職員が室温、臭いを敏感に感じとり利用者が快適 に過ごせるよう対応していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	施設内には必要な場所に手すりなどを設置してい る。ホール内のテーブル・イスを活用し、つたっ て歩けるよう配置している。	○	入居者の方が安全で、出来る限り自立した生活が 送れるように工夫していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個々の状態や理解力を把握し本人の出来る事を活 かし対応している。	○	人格を尊重し自尊心やプライバシーを損ねないよ うに注意し対応している。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物周囲に花・野菜・植木を植えており、入居者 が楽しめるように工夫している。	○	一緒に花木に水やりをしたり、花木を眺めて外気 浴を楽しんだりしている。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別ケアによる家庭的な雰囲気の中で豊かな人間関係を保ち支えあう暮らしができるよう支援しています。